

はじめての

生活が豊かになる

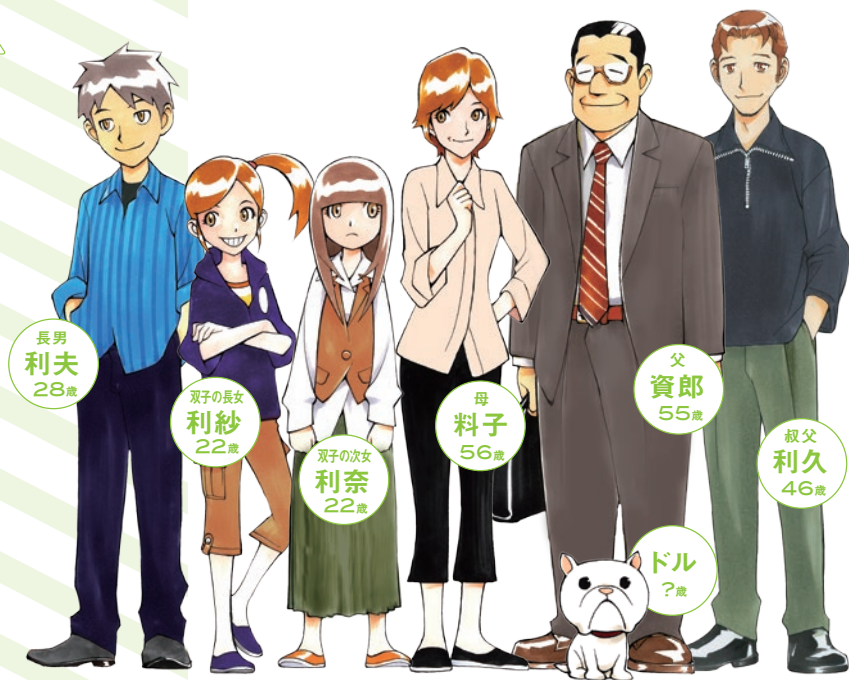
運用のお金の



豊かな暮らしを目指すために 資産運用にも目を向けましょう

多くの人は日々の暮らしの中で、「もう少し余裕があったら、生活が楽になるのに」と感じているのではないのでしょうか。あるいは「老後資金を貯めたいけれど、とてもそこまで手が回らない」と思っているかもしれません。そこで、豊かな暮らしを目指すために、資産運用を考えるのも1つの方法です。自分のスタイルに合った運用方法を探すための第一歩として、この冊子を役立ててください。

登場人物



INDEX

導入 ゆとりある人生を資産運用で P02

第1話 人生に運用が必要な理由はいろいろあります P03

第2話 貯蓄と投資の違いとは? P05

第3話 投資に向く資金と向かない資金 P07

第4話 長期運用と分散投資の効果とは? P09

第5話 知っておきたい投資の費用 P11

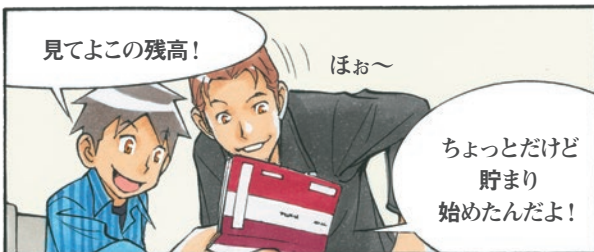
特別付録

知っておきたい!
個人でできる資産形成に役立つ制度

ゆとりある人生を資産運用で



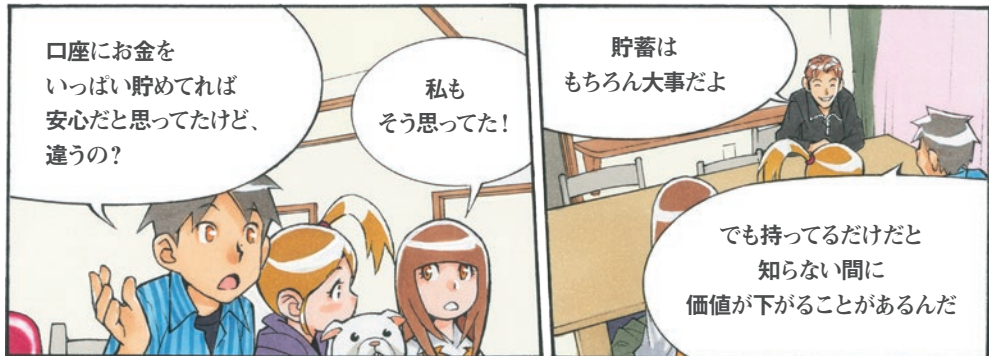
お金は自分で働いて稼ぐもの。そう考えている人が多いかもしれません。しかし、お金自身にも働いてもらえるとしたら…？人生をもっと豊かにするために、資産運用について考えてみましょう。



資産運用のことを考えたことがなかったけれど、興味を持たないのもったいないことなのかも!? お金にも働いてもらうことができれば、日々の生活にゆとりが出たり、老後資金を順調に増やせそうだね。



人生に運用が必要な理由は いろいろあります



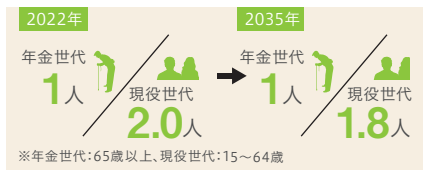
運用によってリスクをカバーしよう

少子高齢化は運用の必要性を高める要因に

日本人の平均寿命が長くなる一方で、年金の支え手が減り続けているため、公的年金はジワジワと目減りしています。このまま少子化が解消されないと、老後資金の必要額はますます増えていくのです。長生きがお金の面ではリスクになってしまう現在、運用なくして、老後資金を準備するのは難しい時代となってきています。



私達の年金も不安だけど、子ども達はもっと不安になりそう



出典: 内閣府令和5年度高齢社会白書

円の変動の価値の変動を利用する為替取引

運用を考えると、避けて通れないのは為替のこと。国内金利は低水準が続いているので、金利の高い海外にも投資先を求めたいからです。外貨預金では円高のときに預けて、円安に動いたときに換金すると、為替差益が得られます。投資信託でも、海外に投資するタイプのものは、為替変動の影響を受ける可能性があります。



お金の運用は生活に不可欠ではないかもしれませんが、
 お金をただ保有しているだけではリスクもあるのです。
 運用によって、そういったリスクを軽減することができるのではないのでしょうか。



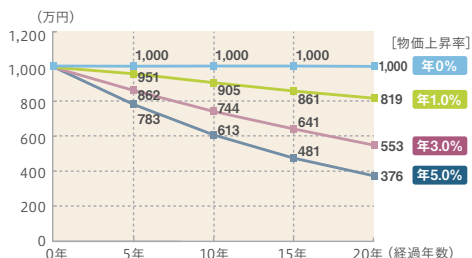
少子高齢化が進むことによる年金への不安、物価上昇による貨幣価値の下落など、私達のお金にはリスクが付きまといまいます。運用によってリスクを軽減し、人生を楽しく豊かなものに使いたいですね。

インフレが継続すると貨幣価値は下落していく

景気と物価の波は常に変動しています。この波は私達の家計にも関わっており、たとえばインフレになるとお金の価値が目減りしてしまうのです。図のように1%ずつの下落でも、10年単位では貨幣価値が大きく下降してしまいます。



ずっと物価が上がりが続いたらこんなにお金の価値が落ちちゃうのかあ...



第1話の
ポイント!

人口構造の変化、為替や物価の変動など、運用に関心を向けるべき出来事が日々起きているのを実感しよう。



NEXT 貯蓄と投資の違いとは? >>

貯蓄と投資の違いとは？



貯蓄と投資、そして投機。
お金を管理する方法は様々な性格のものがあります。
目的によって、それぞれを使い分けることが重要です。



今持っているお金をどうしたい？
その目的によっては、リスクを考えて投資をしてはいけないことも！
目的に合わせて、お金の管理の仕方を考えなくちゃね！



貯蓄と投資、そして投機の性質の違いを把握しましょう

貯蓄は誰もがイメージするように、定期預金などの安全な金融商品に預けて利息を受け取る方法のこと。預けたお金は、元本保証されています。これに対して投資は、価格変動するタイプの金融商品を購入して、元本の成長や配当に期待する方法です。

投資とは？

将来有望と思われる企業やモノに資金を投じることをいいます。金融商品でいえば、株や投資信託を購入して、その運用成果に期待することです。運用がうまくいって利益が得られる可能性がある反面、損失を被る可能性も持ち合わせています。

リスクあり



なるほど～
それぞれ、目的が
違うんだね！

貯蓄とは？

お金を蓄えること。銀行に預ける場合は、普通預金や定期預金に預けるのが一般的です。大きく増やすことはできませんが、元本を守りながら安全に資産形成ができます。

元本保証あり

投機とは？

相場の変動を利用して利益を得ようとする短期的な取引であり、場合によっては大きな損失を被る可能性があります。

第2話の
ポイント！

貯蓄は安全にお金を増やせるよ。でも余裕資金は、一部を投資にまわして、その成果に期待するのがおすすめ！



NEXT 投資に向く資金と向かない資金 >>

投資に向く資金と向かない資金



資産を増やす目的で行う投資ですが、相場の状況や投資のタイミングによっては、資産が減ってしまう可能性も持ち合わせています。したがって、その資金の目的によっては投資に向いていないものもあるのです。



資産運用で頑張った結果が70代や80代になったときに役に立ったらいいよね。とはいえ、きちんと増やしていくには、投資の知識をきちんと身に付けることが欠かせないね。



ライフプランの中で、 投資に向く資金と向かない資金を分けてみましょう

教育資金のように、使う時期が確定している資金は、運用状況が悪い時期に換金しなければならぬ可能性があります。一方、老後資金であれば、自分で使う換金時期を決められます。そのため老後資金は、投資に向けた性格の資金といえるのです。

資金の目的によっては、投資に向かないものもありそうだね



種類	老後資金	住宅資金	教育資金
投資	○	△	×
資金の性質と投資について	リタイアした後の公的年金をベースとして暮らす時期に、ゆとりある生活を実現するために必要な資金。	マイホームを購入するための主に頭金。子どもの年齢に合わせて購入するケースも多く、購入時期は意外に限定されている。	主に高校や大学の入学に備えて準備するお金。子どもの年齢で入学時期が決まり、換金時期を選べないので投資には向かない。

投資するなら

投資信託
外貨預金

準備するなら

財形住宅貯蓄
定期預金

準備するなら

学資保険
定期預金

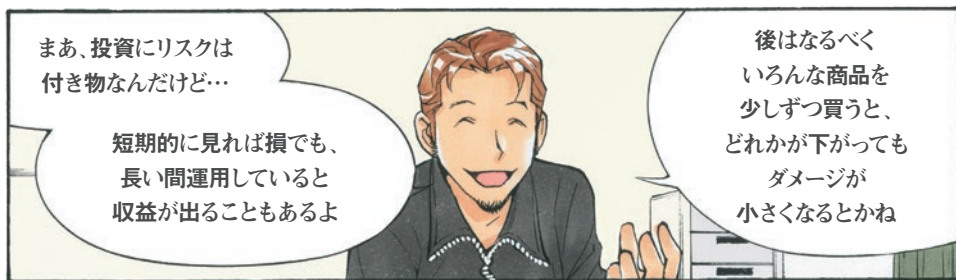
第3話の
ポイント!

投資に向くのは、使う時期が限定されない資金。
換金時期が決まっていなければ、相場を見ながら換金できるよ。



NEXT 長期運用と分散投資の効果とは? >>

長期運用と分散投資の効果とは？



投資をするときは、落ち着いて気長にやるのが大事だね。
目先の結果のみに一喜一憂せず、中長期の視点で考えよう。
また、様々な商品にお金を分散するとリスクも分散するよ！



長期運用と分散投資を上手く使って 安定した運用をしましょう

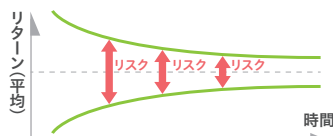
投資に大切なのは、「長期運用」と「分散投資」。分散投資では、値動きする理由が異なる運用商品を組み合わせ、リターン(利益)を最大限に、リスク(損失)を最小限に抑えることを目指します。相場環境が変わってきたら、運用商品や割合を組み替えていくのも、長期運用では大切なポイントになります。

長く運用を続けるには、定期的に運用商品の見直しもしなくちゃね



長期運用とは？

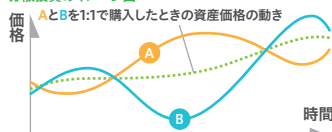
数か月や1年などではなく、5年、10年といった長期間で運用成果をあげることが目標に運用する考え方。



分散投資とは？

たとえば国内株式で運用する商品と、海外債券で運用する商品を同時に購入すると、一度に暴落するリスクを抑えられます。

分散投資のイメージ図



※手数料等は含まない

複利の力を活用しましょう

元本にしか利息が付かない運用商品よりも、元本から発生した利息にも利息が付く複利効果のある運用商品が有利。



ドルコスト平均法を活用しましょう

運用商品の分散のほか、購入時期の分散もリスクを抑える手法の1つ。一定額ずつ買い続けるドルコスト平均法もあります。

		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	合計	1株あたりの購入価格	1株2,500円で すべて売却したら
株式の価格		1,000円	1,250円	500円	800円	2,000円			
定期購入	購入株数	1株	1株	1株	1株	1株	5株		
	購入金額	1,000円	1,250円	500円	800円	2,000円	5,550円	1,110円	6,950円 の利益
ドルコスト平均法	購入金額	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円	5,000円		
	購入株数	1株	0.8株	2株	1.25株	0.5株	5.55株	900.9円	8,875円 の利益

※手数料等は含まない

第4話の
ポイント！

短期的な損得にはこだわらず、市場の状況に合わせて、資産を組み替えながら長期運用を目指そう！



NEXT 知っておきたい投資の費用 >>

知っておきたい投資の費用



投資をする上で、お金が減る要因は、実は商品価値の下落だけではありません。様々なタイミングでかかる手数料、これを意識して取引することも重要です。



商品の価値だけに注目していると、かかった手数料のぶん、実はマイナスだった…なんてことも！
手数料もしっかり考えてから投資しよう！



投資にかかる費用を把握することで 無駄のない運用を心がけましょう

ここでは投資信託を例に取り、売買にかかる費用をご紹介します。投資信託の中でも、アクティブファンドと呼ばれる、ファンドマネージャー（運用のプロ）が積極的な手法で運用するタイプの商品は、手数料が高くなる傾向があります。

運用のプロが運用する商品は、手数料が高めになっちゃうのかなあ



投資信託にかかる費用とは？

買ったときの費用

購入時に支払う申込手数料。申込手数料が無料（ノーロードファンドという）のものもあります。

保有しているときの費用

投資信託を保有している間、保有額に応じて毎日少しずつ信託報酬がかかります。決算時には監査報酬も必要です。

利益を出して 売ったときの費用

売買する口座（一般口座なのか、特定口座か）によって申告方法は異なりますが、利益には20.315%の税金がかかります。（NISA口座を除く）

損失を出して 売ったときの費用

損失については、同じ年に出た利益との損益通算が可能※です。損失が大きい場合は、翌年以降3年間は繰越もできます。（NISA口座を除く）

※確定申告が必要なケースもあります。

〈投資信託にかかる費用〉

時期	項目	費用
購入時	申込手数料*	申込額の一定割合。購入時のみかかる。
信託期間中	信託報酬*	純資産総額の一定割合。毎日信託財産から差し引かれる。
換金時	信託財産留保額	差し引かれるものと、差し引かれないものがある。
	解約手数料*	徴収されるものと、徴収されないものがある。

*申込手数料と信託報酬、解約手数料には消費税がかかります。

第5話の
ポイント！

運用商品は購入時や保有時などに手数料がかかるんだって。
同じタイプの金融商品なら、手数料の安さも選ぶポイントだね！





資産形成 に役立つ制度

個人でできる



● 各制度の特徴

	NISA (2024年～)		iDeCo
	つみたて投資枠 併用可	成長投資枠	
購入方法	定時・定額の積立て	随時(積立ても可)	積立て
年間の購入可能額	年間120万円	年間240万円	各自の職業、加入している年金の制度により異なる
非課税保有限度額	1,800万円 (成長投資枠はこのうち1,200万円まで)		—
対象商品	長期の積立・分散投資に適した一定の投資信託	上場株式、投資信託等(除外されるものあり)	投資信託、定期預金、保険商品等(金融機関により異なる)
非課税で運用できる期間	無期限	無期限	60歳以降の各自の受け取り開始年齢まで
税制優遇	拠出時	—	拠出額が全額所得控除
	運用益に対して	運用益に対して非課税	運用益に対して非課税
	受取時	—	公的年金等控除、または退職所得控除の対象
途中引き出し・売却	可能	可能	原則不可(60歳まで)
その他の注意点	NISA口座で保有する投資信託等を売却した場合、その分の非課税保有額を新たな投資に利用できるのは翌年以降特定口座や一般口座との損益通算不可		別途、口座管理手数料等がかかる

※利用可能年齢は、NISAは18歳以上、iDeCoは20歳以上の居住者等

iDeCo

老後のための
資産形成ならコレ!

個人型確定拠出年金「iDeCo」は、60歳※になるまで掛け金を拠出して、加入者自身が金融商品を選んで、老後のための資産形成を行える制度です。運用期間中の利益などが非課税になるほか、掛け金の全額が所得控除の対象となり、所得税や住民税の負担が軽くなるので、NISAやつみたてNISAに比べて税制上のメリットは大きいですが、**原則60歳まで引き出しができないことに注意が必要です。**受取時にも優遇があり、一時金で受け取れば退職所得控除、年金で受け取れば公的年金等控除の対象になります。

※厚生年金加入者や国民年金任意加入者は65歳になるまで



2017年1月から基本的にすべての方が加入できるようになった

個人型確定拠出年金「iDeCo(イデコ)」や、

2024年1月に抜本的に拡充・恒久化した少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」は、
いずれも非課税の特典を活かしながら運用できる資産形成に役立つ制度です。

NISA

「NISA」は、2014年1月から導入された「少額投資非課税制度」です。一般口座や特定口座で株式や投資信託などを購入した場合、利益(売却益や配当・分配金)が出ると税金が課されますが、**金融機関に開設したNISA口座を通じて投資を行うと、こうした税金がかかりません。**2024年1月に大きな見直しが行われ、制度が恒久化されたことにより、生涯使える安定的な制度になりました。また、年間の購入可能額が大幅に拡充されたほか(つみたて投資枠:40万円→120万円、成長投資枠:120万円→240万円)、「つみたて投資枠」と「成長投資枠」の併用が可能となるなど、多様な投資ニーズに対応できる使い勝手のよい制度になりました。

つみたて投資枠

年間120万円までを定時・定額で
積み立てて非課税で運用できる制度です。
長期の積立・分散投資に適した
一定の投資信託が対象となり、手数料も低いので、
初心者でも利用しやすい制度といえます。

長期でコツコツ
積み立てられる!



成長投資枠

年間240万円までの投資資金から生じた利益が
非課税となる制度で、上場株式や
投資信託等(一部の商品を除く*)への
投資に利用できます。

*①整理銘柄・監視銘柄、②信託期間20年未満、毎月分配型の投資信託
およびデリバティブ取引を用いた一定の投資信託等は除外されます。

税金のかからない投資枠が
年間240万円!



お金のことって ムズかしい!

それでも
ないかもよ?



全銀協の入門シリーズ



監修：ファイナンシャルプランナー 畠中雅子

もっと詳しく知りたい方はコチラ。

全銀協

検索